

《伊豆修善寺殺人事件》

图书基本信息

书名：《伊豆修善寺殺人事件》

13位ISBN编号：9784047794058

出版时间：1991-9

作者：山村美紗

页数：253

版权说明：本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介以及在线试读，请支持正版图书。

更多资源请访问：www.tushu111.com

《伊豆修善寺殺人事件》

内容概要

日本画家の沢木潤一は京都の舞妓小菊たちと共に伊豆修善寺温泉で正月を過ごしていた。ところが宿の一室で女性の他殺体が発見された。被害者は祇園の芸妓で小菊たちの顔見知りであった。やがて京都に帰った沢木たちの前に驚くべき事件が起こった。修善寺に同行した舞妓豆千代が殺されたのである。事件を探る沢木と小菊の前に次々と容疑者が現われ、犯人の魔の手が小菊を襲う…。事件の陰に潜む投資用絵画偽造の疑惑…混迷する財テクブームを背景に、新春の京都と伊豆を舞台にして描く本格長編ミステリー!

《伊豆修善寺殺人事件》

作者简介

1931年(昭6)、京都生まれ。京都府立大学国文科卒。父は憲法学者の木村常信。日本舞踊の花柳流名取、華道の池坊準華監の資格を持つ。

1967年(昭42)、「推理界」に「目撃者御一報下さい」を発表。この頃、テレビドラマ「特別機動捜査隊」の脚本も手がけている。

1970年(昭45)、「京城の死」が第16回江戸川乱歩賞候補となり、のちに「愛の海峡殺人事件」として刊行。

1971年(昭46)、「死体はクーラーが好き」が小説サンデー毎日新人賞候補となった。

1972年(昭47)、「死の立体交差」が第18回江戸川乱歩賞候補となり、1976年(昭51)、「黒の環状線」として刊行。

1973年(昭48)、第19回江戸川乱歩賞候補となった「ゆらく海溝」を、1974年(昭49)、「マラッカの海に消えた」として刊行。

1975年(昭50)に刊行した「花の棺」が、1976年(昭51)に第29回日本推理作家協会賞長編賞の候補となる。

1982年(昭57)に刊行した「燃えた花嫁」が「週刊文春」の82年「傑作ミステリーベスト10」の8位に選ばれる。

1982年(昭58)に発表した「消えた相続人」で1983年(昭59)、第3回日本文芸大賞を受賞。

1992年(平4)、第10回京都府文化賞功労賞 京都府あけぼの賞を受賞。

トリックメーカーとして知られ、日本のクリスティともいわれている。西村京太郎と親しい関係にあった。

1996年(平8)、心不全のため死去。

《伊豆修善寺殺人事件》

精彩短评

1、山村著作No.98：泡沫经济的破灭加上海湾战争的影响，导致股市低迷。于是名画就成了投资者追逐高回报率以及巧妙避税的工具，然而赝品却不断流出……剧情实在是有点平淡，犯人也略明显，全书的记忆点就是画家泽木和舞妓小菊之间有趣的互动，以及她最后的一句提问：“日本经济将会怎样呢？”

《伊豆修善寺殺人事件》

版权说明

本站所提供下载的PDF图书仅提供预览和简介，请支持正版图书。

更多资源请访问：www.tushu111.com